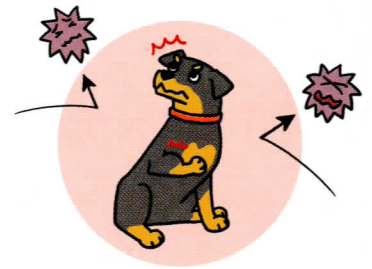


定期的な予防で、ワンちゃんを守りましょう。



犬に感染するウイルスによる伝染病や寄生虫には危険なものがたくさんあり、抵抗力のない子犬の場合、重症化しやすくなります。どんなウイルスや寄生虫があなたのワンちゃんを狙っているのか、正しい知識を学びましょう。

伝染病

混合ワクチンの接種で予防できる病気

● 犬ジステンパー 死亡率が高い

高熱、目やに、鼻水が出て、元気や食欲がなくなり、嘔吐や下痢をします。死亡率の高い病気で、神経系が侵され、マヒなどの後遺症が残る場合があります。



● 犬アデノウイルス2型感染症(犬伝染性喉頭気管炎) 死亡率が高い

発熱、食欲不振、くしゃみ、鼻水の他、短く乾いた咳がみられ、肺炎を起こすこともあります。他のウイルスとの混合感染により症状が重くなり、死亡率が高い呼吸器病です。



● 犬伝染性肝炎

発熱、腹痛、嘔吐、下痢が見られ、目が白く濁ることもあります。子犬が感染すると、無症状のまま突然死することもあります。



● 犬パラインフルエンザウイルス感染症

風邪のような症状が見られ、混合感染や二次感染が起こると重症になり、死亡することもあります。伝染性が非常に強い病気です。



● 犬パルボウイルス感染症 死亡率が高い

口からの感染により、激しい嘔吐、下痢を起こし、食欲がなくなり、急激に衰弱します。重症になると脱水症状が進み、短時間で死亡することもあります。伝染力が強く、死亡率の高い病気です。



● 犬コロナウイルス感染症

成犬の場合は、軽度の胃腸炎で済むことが多いのですが、犬パルボウイルスとの混合感染で重症化することもあります。子犬の場合は、嘔吐と重度の水溶性下痢を引き起こします。



● 犬のレプトスピラ感染症 届出伝染病 動物由来感染症

7種類が届出伝染病に指定されており、イクテロヘモラジー型・カニコーラ型・グリッポチフォーサ型・ポモナ型などがあります。犬から人間にも感染する病気です。



狂犬病

● 狂犬病 法定伝染病 動物由来感染症 (狂犬病ワクチンの接種で予防できる病気)

犬や人だけでなく哺乳動物すべてに感染し、発症すればほぼ100%死亡します。最近、海外で感染犬にかまれた日本人が、帰国後に発症・死亡する事例があり、その恐怖心が再認識されています。年1回のワクチン接種が法律で義務づけられています。



寄生虫

● フィラリア

蚊が媒介して感染します。発症すると、運動を嫌がったり、激しい呼吸困難・腹部の膨張などの症状がみられ、放置すると死に至ります。



● ノミ・マダニ

ノミは激しいかゆみの原因となり、その部位をひっかくことでアレルギー性皮膚炎を引き起こす場合があります。各種の病原菌を媒介し、重篤な感染症の原因になります。



● 犬回虫

お腹に寄生し、子犬は栄養を取られてしまいます。このため、発育不良や体重減少を引き起こします。また下痢・嘔吐などの症状を示す場合もあります。



届出伝染病 動物から人間にも感染する病気で、届出が義務づけられている感染症のことです。

動物由来感染症 動物から人に感染する病気の総称です。厚生労働省は、人への感染経路を重視する観点からこの呼称を使っています。

法定伝染病 狂犬病予防法によりワクチン接種が義務化されています。

